

標高が高くなるほど降水量は増えるが、室堂平は特別に多いようだ

山では標高が高くなるほど降水量が増えます。山の斜面を大気が上昇し、雲が発達するためと考えられています。立山でもその現象が見られます。図1-11-1は2004年から2008年までの各年の9月の降水量(酸性雨の観測試料から計算)を観測点標高に対してプロットしたものです。グラフは縦軸が標高、横軸が降水量を示しています。立山黒部アルペンルート沿いでは、多少の凸凹がありますが、標高650mの桂台から2839mの浄土山山頂にかけて、標高が高くなると降水量が増加する様子がわかります。これらのうち、室堂平(標高2450m)の降水量が、他の観測点よりも多くなるため、2009年の観測では、標高1930mの弥陀ヶ原から室堂平にかけて、観測点を増やしてみました。図1-11-2はその観測データで、標高に対する降水量の変化は、桂台から弥陀ヶ原までと美松坂(標高2080m)から天狗平(標高2310m)までとが似た状況にあり、室堂平は、やはり、これらの地点とは異なるようです。

室堂平は他の場所と異なり、東側の立山、南の浄土山から天狗山の稜線、北側の大日連山の稜線で囲まれ、西側の天狗平方向のみ開けており、地形の影響があるのかもしれません(図1-12)。

なお、雨量計の記録を見ると、立山ではどの観測点もほぼ同じ時間帯に雨が降っている場合が多く、室堂平では単位時間あたりの雨量が他の地点より多くなります(図1-13)。

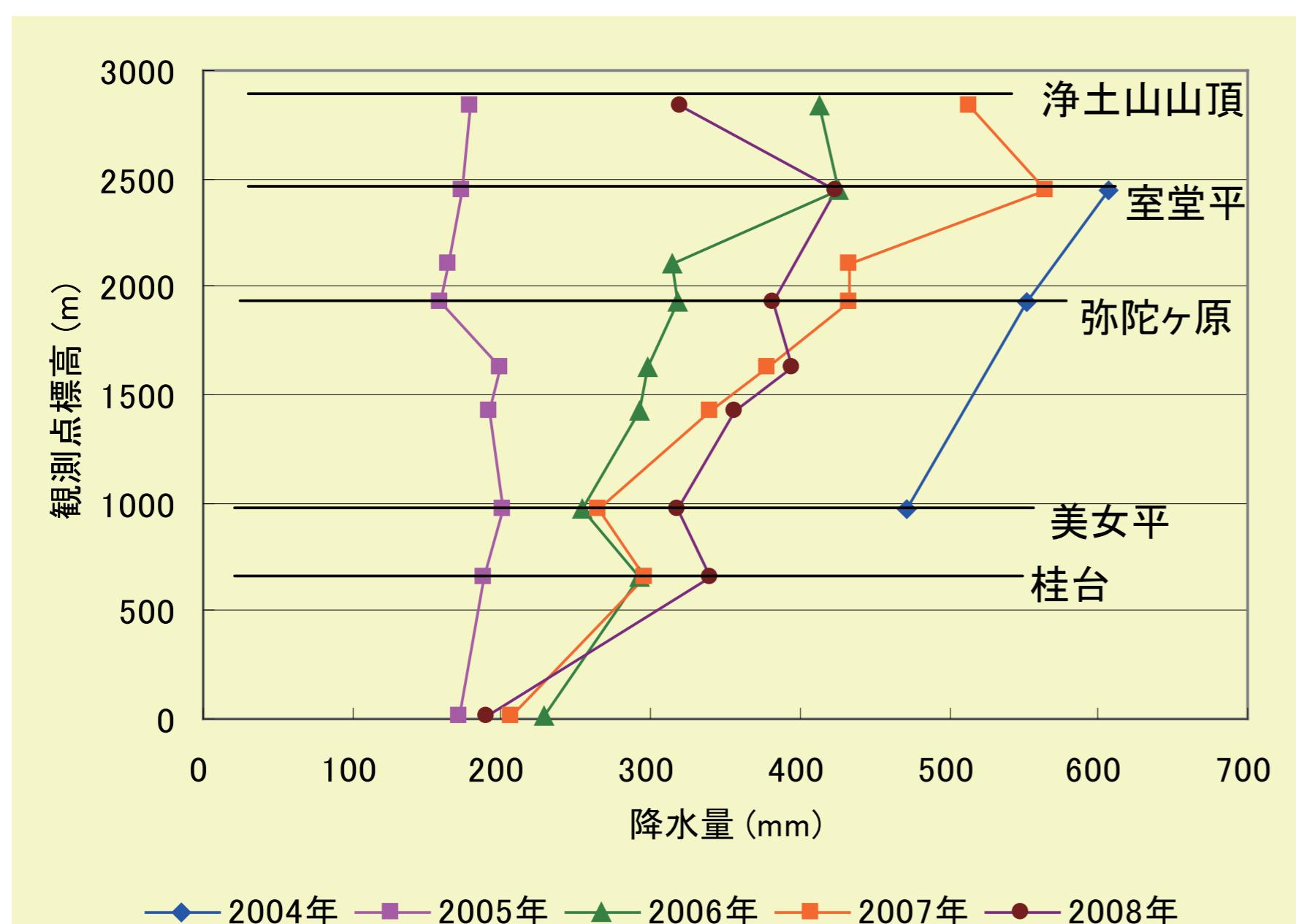


図1-11-1 立山の標高に対する降水量
(2004年-2008年の各年9月の降水量)

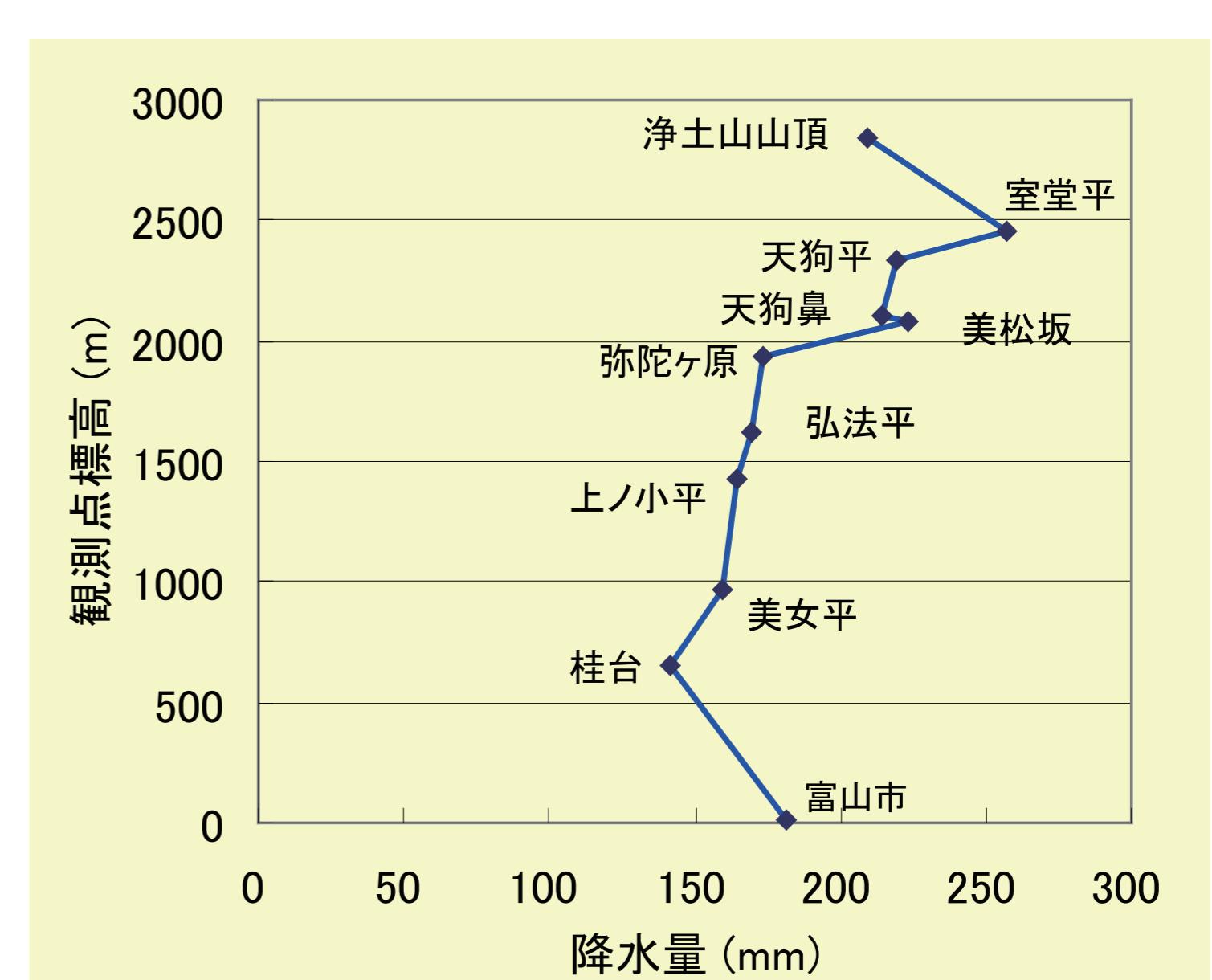


図1-11-2 立山の標高に対する降水量
(2009年9月観測)



図1-12 室堂平を取り囲む立山(正面)や
浄土山・室堂山(右の山裾)

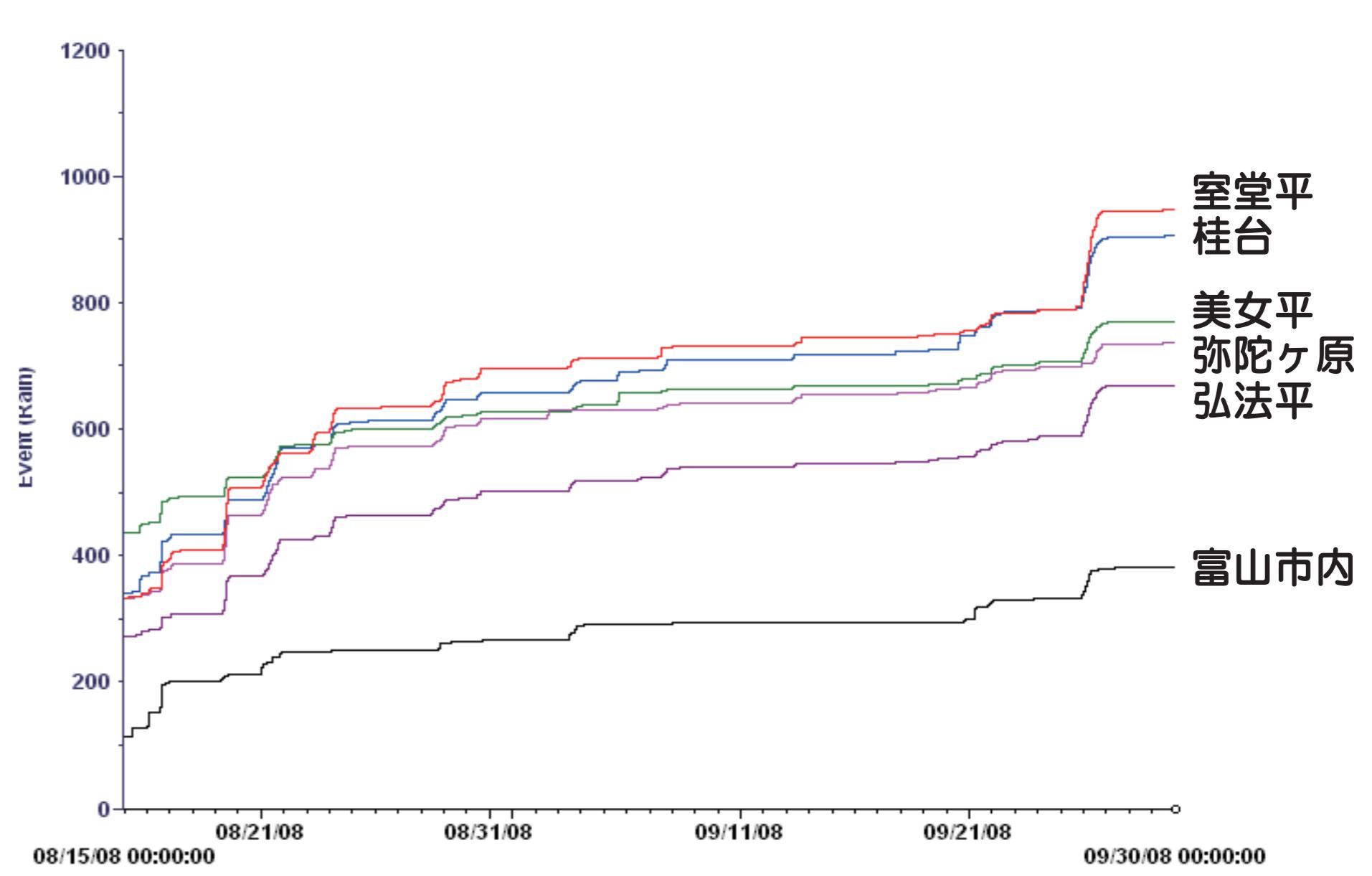


図1-13 立山の各観測点での雨量計の記録